

第3回 県庁舎のあり方等に関する検討会 にぎわいづくり部会 議事要旨

1 日 時 令和7年7月17日（木） 15時00分～17時00分

2 場 所 兵庫県庁第3号館7階 大会議室

3 出席者

（1）にぎわいづくり部会構成員 ※敬称略

氏 名	職名等	出欠状況
赤澤 宏樹 ※1	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	出席
秋田 大介	株式会社イマゴト 代表取締役	出席
秋元 勇人	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部兵庫支社 副支社長	代理出席 (大島 諭)
大井 史江	武庫川女子大学建築学部建築学科 准教授	出席
岡本 篤	株式会社ムサシ 代表取締役社長	欠席
嘉名 光市	大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻 教授	出席
小泉 寛明	株式会社緑青舎 取締役	出席
施 蓮華	鯉川山手街づくり会 会長	欠席
高田 知紀	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授	出席
津島 秀郎	神戸市都市局都心再整備本部 局長（事業推進担当）	出席
永田 耕一	元町東地域協議会 会長	代理出席 (永田泰資)
奈良山 貴士	みなと元町タウン協議会 副会長	出席
蓮池 國男	神戸元町商店街連合会 会長	出席
松原 亜希子	株式会社大丸松阪屋百貨店 大丸神戸店長	欠席
溝口 克臣	山の手ふれあいのまちづくり協議会 委員長	出席
横山 直己	神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会 委員長	出席

※1：会長

（2）県当局

木村理事、有田総務部長、波多野職員局長兼県庁舎整備プロジェクト室参事、
松井県庁舎整備プロジェクト室長、津志新庁舎企画課長、前野管財課長、森本儀典室長、
岡田芸術文化課長、澤田都市政策課長、林都市計画課長 ほか

4 主な意見

※ 開会あいさつ、メンバー紹介、資料説明等については省略するとともに、発言内容は一部要約しています。

- ・ 県庁敷地の活用案を民間事業者を求める際は、敷地を売却するのか、定期借地権を設定するのか、県のスタンスを示す必要がある。
- ・ 県庁敷地にマンションを導入する場合、敷地を売却しなければ民間事業者としては採算が合わないと思われる。
- ・ 事業全体の資金調達はどのような方法を考えているかを示したほうがよい。例えば、

新庁舎建設費の財源を捻出するために、敷地を売却するのか、民間提案エリアの整備費や管理・運営費は民間事業者が負担するのか等。

- ・ 県庁周辺は JR 元町駅からのアクセスが上り坂なので、徒歩で多くの集客が見込める場所ではないが、駐車場を整備すれば、自動車交通量の多い山手幹線からのアクセスが見込めるかもしれない。
- ・ 県庁敷地の活用案は、近隣向けの商業機能と、カフェやレストランを備えた広場であればイメージができる。ただし、その想定では遠方からの集客が見込めないため、事業採算が合うかどうかネックとなるかもしれない。
- ・ 2号館前の県庁オアシスや県公館の樹木を残すかどうかの考え方も重要。
- ・ 民間提案エリアのサウンディング調査について、条件を明確にせず対話する場合は、専門家に法的な観点や金銭面で助言を得ながら進めるほうが望ましい。
- ・ 民間提案エリアについて、売却も可能とするかどうかは、新庁舎等の将来的な建替え用地の確保や、今回の開発のエリアとしての一体性を念頭に置き、敷地によって対応を変えたほうがよいかもしれない。
- ・ サウンディング調査は、1回で終わると決めず、条件を変えれば異なる提案が得られる場合もあるため、必要に応じて複数回行うことも検討したほうがよい。
- ・ ハーバーランドや新港突堤エリアは、元町駅からのアクセスが良く人流が活発である。県庁周辺の再整備は、元町駅周辺も一体のエリアとして捉え、こうした人流の状況を踏まえ、回遊性の向上などあり方を検討してほしい。
- ・ 金星台などがある諏訪山へのアクセスについては、徒歩だけではなく、バスや電動自転車などの次世代モビリティも含め、公共交通機関を活用する視点も必要。
- ・ 県庁周辺は、元町駅南側よりも住宅が多い特性を前提に、静かなにぎわいを目指してほしい。例えば、文化交流機能はイメージに合うのではないか。
- ・ 元町駅から県庁周辺を経て、金星台に至る道路を「ヴィーナスロード」と名付け、南北の回遊動線の軸として位置づけてほしい。
- ・ 住民と来街者が協調・共存するまちのコンセプトにおいて、来街者向けに今ない機能を整備することだけでなく、住民目線で導入機能を検討することも重要。
- ・ 住民の立場で賑わう場所となるには、周辺で生まれ育った子供たちの思い出が形成されるような場所が必要ではないか。日常の中で、県庁に行こうと思えるような場所を目指す視点を明記してはどうか。
- ・ 神戸市の再開発と、JR 元町駅周辺のリニューアル、県庁周辺、各主体が情報共有しながら連携し、包含的にマネジメントするような体制を示すことも重要。
- ・ 民間の再開発の多くは、マンション建設による利益回収を当てにしている場合が多い。
- ・ 元町地域は三宮とは異なるミックスユースのまちである特徴を活かし、多様な機能を広場空間で繋げることで、人と人のリアルな交流を生み出し、落ち着いた多様性を生み出すというコンセプトがよいのではないか。
- ・ 近年、広場は集客機能を有するコンテンツとなっている。できれば敷地の結合を含めてエリア価値を向上できれば、県庁周辺への回遊性の向上に寄与するのではないか。
- ・ 文化施設である県民会館も集客機能として賑わいに貢献する中、県庁も単なるオフィスではなく、まちに開かれた県庁を目指すことが必要ではないか。そのためにも建物のデザインにも力を入れてもらいたい。
- ・ 三宮と比べて家賃が低く、居心地のよい拠点があれば、多様な人が自然と集まり、新

しいものが生まれるといった意味でのイノベーションも考えられる。

- ・ 県庁舎が元町地域だけでなく、県全体に貢献する視点も重要。兵庫県全体の交流の窓口として、地域内外の方を繋ぐような機能があればいいのではないかな。
- ・ 公園や図書館では、地域交流の促進や景観への貢献が求められているのと同様に、庁舎も本来の機能だけでなく、周辺への波及効果を発揮するあり方を考えてほしい。
- ・ 新庁舎整備や周辺まちづくりの中で、県の産業振興やスタートアップ支援、文化振興などの所管部局の取組と連携することや、民間の機能が隣り合うことで相乗効果を発揮できるようなものになってほしい。県が期待している内容を民間事業者に提案を促すようなことも必要。
- ・ 構想や計画を作って終わりではなく、ステークホルダーが議論やトライアルをしながら発展成長していくモデル的な仕組みが必要ではないかな。加えて市町のまちづくりもサポートしていく、アーバンデザインセンターのような官民連携の推進主体を設けるほうがよいのではないかな。
- ・ 地元住民も気づいていないような元町にしかないものを活かす視点が重要。
- ・ 市役所と比べて県庁は馴染みが薄いため、気軽に行きやすい仕組みづくりが必要。
- ・ 海外の長期滞在の旅行者は、街の全体像を見渡せる高い建物に行く人が多い。県庁に展望エリアがあれば来街者の玄関口になり、そこに兵庫五国の紹介機能が併せてあればよい。
- ・ 基本構想の策定後、実際の整備までの間、進捗状況が分からない事態に陥ることが多いので、周辺地域の住民と議論や情報共有ができる場を一定設けたほうがよい。
- ・ 県公館を見れば兵庫の歴史を感じられるので、新庁舎と調和する景観形成を目指してほしい。
- ・ ソフト的な賑わいづくりとして、神戸元町商店街と連携したイベントが企画できないかと思っている。
- ・ 資料 p 4 の図面が令和 3 年時点の古い資料であるため、更新すべきではないかな。
- ・ 神戸では、地域価値向上のために主体的にエリアマネジメント活動に取り組むデベロッパーが見つかりにくいいため、民間に委ね過ぎず、いかに行政側が事業者と積極的に取り組むかが重要になる。
- ・ 景観デザインコードは、どの程度・どの範囲を想定しているかを示してもらいたい。
- ・ 道路など公共空間整備は、管理者だけでなく、民間事業者が道路空間を含めて再編する可能性もある。そのため、『公共空間の整備権限を有する神戸市』という記載を『公共空間のあり方を管理者である神戸市』等に修正をしてもらいたい。
- ・ エリアマネジメントは、ポリシーを発信し続ける団体があらばうまくいく傾向がある。
- ・ 県庁舎と公共施設の合築は全国的にも珍しく、ぜひモデル的な事例になってほしい。また、財源の範囲内で立派な魅力ある施設を整備してもらいたい。
- ・ 基本構想の策定後もオープンに意見を聞く機会を設けることで、県庁敷地で事業を行うプレイヤーの参画を促し、巻き込んでいく姿勢が重要。
- ・ 庁舎に来た人が、県内の林業や農業などを感じられる仕掛けがあるとよい。例えば、県産木材の庁舎の横に棚田があるなど、ビジュアル的な仕掛けや、稲刈りができるイベントなどソフト事業を考えてもいいかもしれない。